



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2009年（平成21年）3月25日号 No. 1458

目次

| | |
|------------------------------|---|
| ■カスピ海沖で進む2つの油田開発とBTCパイプライン | 1 |
| ■トピックス | 7 |
| 清水建設がバイカル湖底ガス回収に成功／7 | |
| 日本車両製造がロシアから貨車製造設備を受注／7 | |
| 東芝がロシアと原子力協力で合意／7 | |
| 日本がウクライナの排出枠を購入／8 | |
| 日本コンサルティング・エンジニア協会がウズベクと覚書／8 | |
| ■エトセトラ | 8 |
| 新刊案内『拡大するEUとバルト経済圏の胎動』／8 | |
| 『調査月報』2009年4月号のご案内／9 | |

インタビュー

カスピ海沖で進む2つの油田開発とBTCパイプライン

(株)日本政策金融公庫 国際協力銀行

麻生 憲一さん 伊藤 雄介さん

はじめに

国際協力銀行（JBIC）は世界各地の油田開発や権益取得などに取り組む日本企業を積極的に支援している。そのなかでもカスピ海沖の油田開発、すなわちアゼルバイジャンのアゼリ・チラグ・グナシリ（ACG）油田開発およびBTCパイプライン（バクー〔アゼルバイジャン〕～トビリシ〔グルジア〕～ジェイハン〔トルコ〕にいたる1,768kmの石油パイプライン）敷設、そしてカザフスタンのカシャガン油田開発事業は、「原油自主開発比率を現状の15%から2030年には40%に拡大する」との数値目標を定めた経済産業省「新・国家エネルギー戦略」の重要なプロジェクトとして位置づけられている。しかしながら、2008年には、カザフスタン政府の後押しによって、同国国営石油会社がカシャガン油田事業の他の筆頭権益保有コントラクターと同じ権益を有するようになったり、ロシア・グルジア紛争がBTCパイプラインの安定的な原油輸送に疑問符を投げかけたりなど、懸念材料も聞かれる。そこで今回は、JBICの担当者の方々から、上記プロジェクトの現状と課題についてうかがった（文中敬称略）。